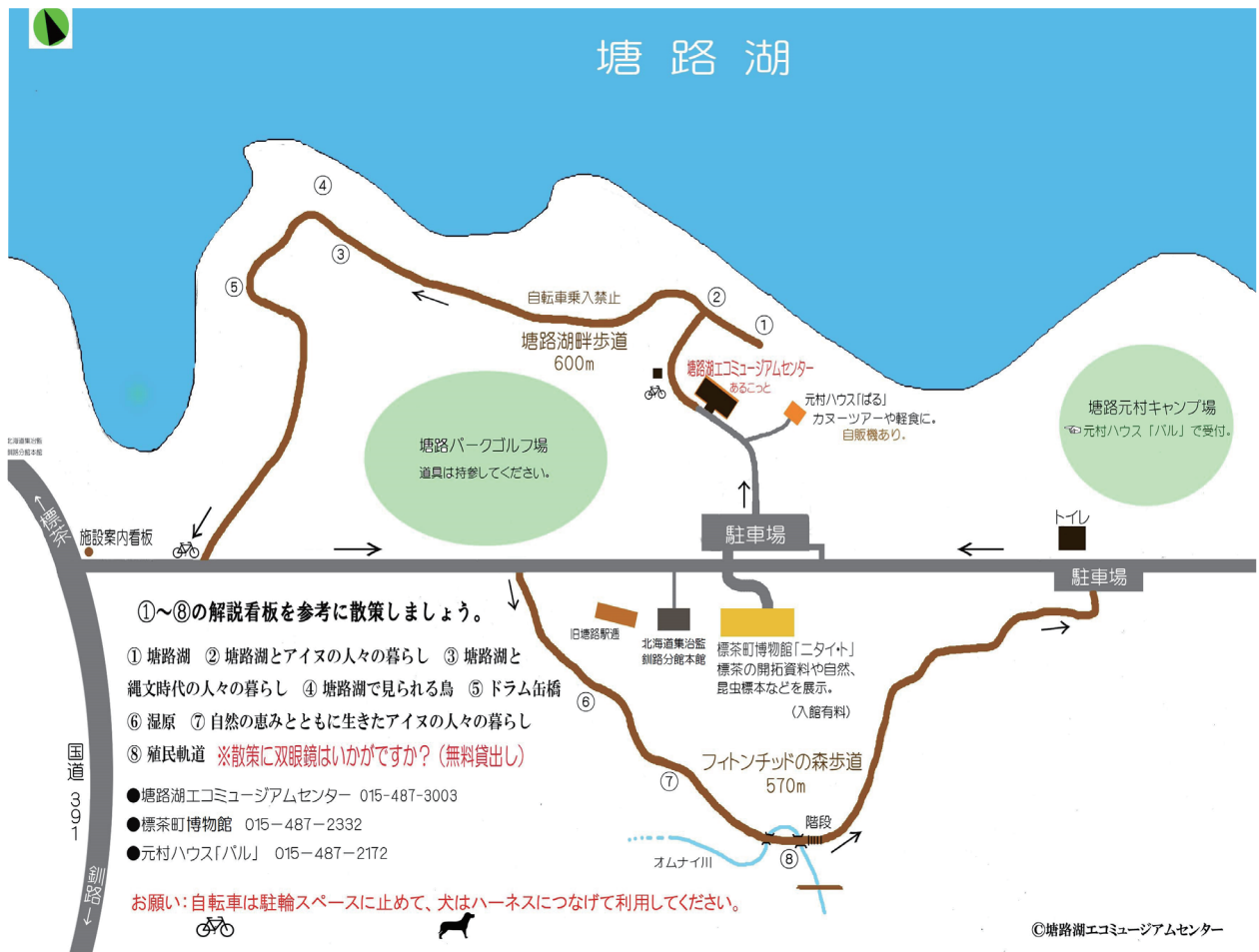




塘路湖に浸かるエゾシカ

記録的な猛暑の本州以南と比べて釧路湿原はそれほど高気温ではない2024年の夏。塘路湖では暑い日も涼しい日も、水中にエゾシカの姿がある。多い日には8頭以上の群れが水面から顔だけ出している異様な光景を目にすることができる。リラクゼーションという表現がふさわしいのか長時間にわたり水中に浸かりっぱなしだ。しかし8月上旬、エゾシカにとって歓迎せざる哺乳類が泳ぎにやってきた。ニュースにもなったヒグマだ。水中のエゾシカは一斉に消えた。



塘路フィールドノート【7/15~8/14】

【野鳥】

本州以南では猛暑やゲリラ豪雨のニュースが多いこの夏ですが、ここ釧路湿原は30℃を超える日はあまりなく、鳥たちも無事繁殖を終えて地鳴きがあちこちから聴こえます。



アオサギ(塘路湖)

生後2年目と思われる色彩の幼鳥。何やら相談でもしているかのような行動。



オシドリ(シラルトロ湖畔)

目立たない色彩のメス。水草が覆う水面をスローペースで移動。陸ではドングリ好き。



ハクセキレイ(塘路湖岸)

もうすぐ自立の季節。親鳥へのおねだりも突っぱねられる日も近いうちに來ます。



オジロワシ(塘路湖)

塘路湖に長年居ついている主のような存在の個体。空でも樹上でも貫禄充分です。



ビンズイ(シラルトロ湖畔)

明るい森林を好み、木の枝で横歩きができ、クモなどを捕食します。和名「便追」



シマアジ(塘路湖)

全国的な旅鳥のカモ類ですが、ごく一部が道東で繁殖すると言われています。

【植物】

昨年よりは猛暑が続かない塘路湖周辺では植物たちも順調に実を付けて、なにやら豊作の予感がいたします。山奥での結実によっては秋以降のヒグマの出没にも影響します。



オニグルミ (鬼胡桃)

高い栄養価で様々な生き物が利用してきた歴史があります。多感作用の代表的樹木。



サルナシ (猿梨)

名前の由来は山の果物の中で最も美味しく猿も好むから。蔓も丈夫で腐りにくい。



ヤマブドウ (山葡萄)

結実が多く豊作。果実を食すほか樹皮を籠に利用してきた歴史があります。



ミズナラ (水檜)

ドンダリの結実によって秋のヒグマ注意報に影響が出る植物。今年はいかに？



エゾトリカブト (蝦夷烏兜)

キンボウゲ科の代表的な毒草。葉は食用のニンソウと酷似するので春先に誤食注意。



ルイヨウショウマ (類葉升麻)

通常黒い実を付けるが北方のものは実が赤くアカミノルイヨウショウマとも。

【昆虫・哺乳類・両生類】

人間にとっては不快な高温多湿でも昆虫にとっては条件が良いのかキリギリスの鳴き声は昼夜問わず、チョウ類の飛翔も多く見られ、トンボも至る所で活動しています。虫を食べるカエルや魚を捕食するミンクまで活発です。



コオニヤンマ (塘路湖)

塘路湖では日当たりの良い砂礫で休憩している姿がよく見られます。



クロイトトンボ (塘路湖湖畔)

エゾイトトンボよりやや小さく、平地から広陵地の湖沼まで分布しています。



エゾイトトンボ (塘路湖湖畔)

平地から山地まで広範囲に分布。連結したペアもこれから湖面で見られます。



トノサマバッタ (塘路原野)

イネ科の植物を好み、明治期には北海道を大集団が襲ったこともあります。



アメリカミンク (塘路湖畔)

泳ぎが得意で水辺の小動物や魚類を捕食します。2006年特定外来生物指定



ニホンアマガエル (塘路湖畔)

場所によって体色を変えることができ、葉の上で昆虫を捕食する姿が見られます。

◎「夏休み！塘路湖畔の夜の虫を探してみよう」を開催しました

7月27日夜、塘路湖畔でライトトラップに集まる昆虫を観察する観察会を実施しました。まず、講師より夜の虫を観察するコツが伝授されました。風がなくて雨が降っておらず、蒸し暑い日がよく、月が出ていない暗い夜が最も適していること。また、気温や気象条件を記録することの重要性とライトトラップの仕組みや光に集まる昆虫の生態についての講義を受け、いざ、野外でライト点灯。

最初に鱗翅目（蛾や蝶の仲間）が飛んできて、そのあと甲虫目（カミキリやクワガタなど）が飛んできますが、子供たちが喜ぶクワガタムシはなかなか飛んできません。

20時が過ぎ時間が迫る中、保護者がミヤマクワガタの雄を発見。参加者みんなでそれを観察しました。国立公園の昆虫は、後世の人たちのために大切に残していく必要があることを学び、みんなで集めた昆虫をリリースし終了しました。

参加者 15名



観察風景&ミヤマクワガタ

9月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

ムックリを作ってみよう

[日 時] 9月28日(土) 13時～15時

[定 員・参加料] 15名 材料費・550円

[開催場所] 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

アイヌの人々が利用した植物

[日 時] 9月1日(日) 10時～12時

[定 員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター周辺

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター(0154-65-2323)まで

◆日出・日入時間 7/31(4:11,18:44). 8/15(4:27,18:24). 8/31(4:45,17:58)

～指導員の独り言～

■日高山脈襟裳十勝国立公園として国内35番目、道内ではここ釧路湿原以来7番目の国立公園が誕生した。国立公園としてはこちらが先輩だが、成立年代からすると日高山脈がはるかに古い。日高山脈最高峰(2052m)を記念登山した。雄大かつ遥かなる山並みにつながる稜線に立ちみると感じる凄みと恐ろしさ。人生において何度も来れない場所と実感した次第。生きていれば80代の標高年登山は絶対無理だろう。いや諦めてはいけない? (M)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004
E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料